

平成20年度市民と市長のまちかどトーク 開催概要

- 1 日 時 平成20年11月29日(土) 午後2時～3時30分
- 2 場 所 小田原ラスカ 6階^ユー^メテラス
- 3 開催テーマ 語り合おう!新しい小田原を～市民の力を活かすまちづくり～
- 4 参 加 者
 - (1) 一般市民: 40名
 - (2) 市側出席者: 加藤市長、加部副市長、大野副市長、秘書広報担当参事、
広報広聴室(事務局)
- 5 意見交換の一覧
 - (1) 中心市街地周辺の市民の関心が低いように思える.....1
 - (2) 地区懇談会の開催方法について・裁判員制度について.....2
 - (3) 自治会の位置付けについて・課題別検討委員会でコーディネーターを設置
したらどうか.....2
 - (4) 議論の進め方について・文化都市にふさわしいまちにしてほしい.....3
 - (5) 地域経済の活性化について.....5
 - (6) 堆肥センターをつくってほしい.....6
 - (7) 江の浦の市道での交通事故について.....7
 - (8) これからのゴミ処理の方法について・懇談会のあり方について.....7
 - (9) 公務員不信について.....9
 - (10) ナック、小田原地下街、長崎屋の現状について.....10

意見交換の概要

(1) 中心市街地周辺の市民の関心が低いように思える

- ・ 前回、ロビンソン百貨店で開催したまちかどトークはもっと参加者が多かった。今回は街なかでの開催であり、この中心市街地は、お城通り地区再開発事業や小田原地下街、あるいは市民ホールなどといった市の重要課題を抱えているため、もっと市民の関心が高いと思っていた。川東地区の方たちの方が熱心だと感じた。現在の状況では、川東地区が商店街で、市の中心地部は通勤都市になってしまっている。
- ・ あまりにも市長さんの理想が高すぎて、地域の方々がついていけないのではないか。いくら市長さんが一生懸命頑張っても、地域の方々が動いてくれないと市政の発展はないと思う。これは持論であるが、中心市街地は城下町ということで大名商売をやってしまっていて、結局地域が活性化しないのではないかと。

市長

- ・ 中心市街地はいろいろと課題が多い地域なので、もう少し関心が高いかと思っていたが、行楽日和ということもあり外出された方が多いのではないかと。
- ・ 実際に市民生活の中で、川東地区に行かないと手に入らない商品が増えてきており、市街地は商業地として苦しい状況に置かれている。
- ・ 小田原駅周辺は、昔のように商業施設があってお買い物をする場所というよりは、東京からも近く公共交通を使って来ることができし、背後には箱根・伊豆を控えているため、小田原駅周辺だからこそできることがたくさんあると思う。
- ・ そのような新しい中心市街地の姿を市民の皆さんと一緒につくっていく時代になってきていると思うので、できるだけ分かりやすく説明し、皆さんにも参加していただきながら、一緒にこのまちをつくっていきたい。

（２）地区懇談会の開催方法について・裁判員制度について

- ・ 市長は後援会の主催で、地域別の懇談会をやっておられると思うが、後援会主催ではなく、公人として、例えば、地域政策課や広報広聴室、企画政策課などが主体となって、どなたでも参加できるような地域別のミーティングをやるべきだと思うがいかがか。
- ・ 裁判員制度は無作為で裁判員候補者を選ぶとのことだが、候補者は裁判所が独自に選んでいるのか、それとも市が名簿を渡して選んでいるのか。

市長

- ・ 市としての地域別の懇談会は、現在、地区懇談会として市内２５の自治会連合会単位に開催しており、各地区の自治会長さんをはじめ、地域の団体のお役の方々に参加していただいている。ただ、参加者は地域のお役の方々を対象とさせていただいている。来年度以降は２順目となるので、地域のどなたでも参加できるような形で実施できるように考えていきたい。

加部副市長

- ・ 裁判員制度は国の制度であるが、新聞報道等の情報によると、裁判所が市町村の選挙管理委員会に必要な人数を割り当て、選挙人名簿からくじで選定した候補予定者名簿を裁判所に送付し、裁判所が通知している。

（３）自治会の位置付けについて・課題別検討委員会でコーディネーターを設置したらどうか

- ・ 課題別検討委員会の中で自治会という名称が多く出てくるが、市の制度の中で自治会の位置付けはどうなっているのか、条例化されているのか。また、自治会長は特別職なのか、報酬はどうなっているのか伺いたい。
- ・ 課題別検討委員会では、団体や市民委員等とともに議論を構築していくようであるが、もっと実践的なやり方として、中間的な実務者としてコーディネーターのような役割が必要だと思うがいかがか。

加部副市長

- ・自治会は任意の団体で、地域の中で自主的に活動されているので、条例で位置付けがされているような団体ではない。また、自治会長という職に対して報酬を出していることは一切ない。ただ、地域に広報活動をしていただいたり、地域から情報をいただいたりする制度として、広報委員という制度がある。この広報委員は非常勤の特別職に位置付けられており、各自自治会からお一人ずつ推薦していただいている。この広報委員に対して報酬を出しており、その職に自治会長が自らなっているケースがほとんどである。

市長

- ・課題別検討委員会の中でのコーディネーター的な人材の配置であるが、まずは市民の皆さんが満遍なく参加できる状況をつくり、そこから議論を立ち上げていかないと、市民参画のプロセスにはならないと思っている。ただ、ある程度議論が進み、それをさらに具体的に進めていく段階になったときに、市民と行政との間にコーディネーターのような存在が必要かも知れないが、今の段階では、市民の皆さんに門戸が開かれた状態の中で議論を進めていくことが必要だと考えている。

(4) 議論の進め方について・文化都市にふさわしいまちにしたい

- ・市長は市民の方からいろいろと意見を出してほしいということであるが、市民は細かい方策は分からないと思う。やはり、市長をはじめ、関係者の方からある程度の試案を出していただき、その試案に基づいて信念をもって進めてほしい。
- ・小田原市は昔から文化都市と言われているが、もっと掘り起こせば文化資産はあると思う。資産が他県に流れていたり、地域に埋もれていたりしているのでないかと思うので、こういったものを掘り起こし、文化都市にふさわしいまちにしたい。

市長

- ・これから進めようとしているまちづくりは、これまで地域の中で力を発揮されることのなかった市民の皆さんからの意見や主体性、アイデアといったものを、皆さんの中から立ち上がってくるような働きをもっと育てなければいけないという思いがあり、そういったことに十分配慮した市政運営を進めたいということで説明させていただいた。
- ・そうはいっても、市民レベルではなかなか難しいのではないかとのご意見であるが、すべてのことをゼロベースで考えていただくことは難しいと思うので、それについては、行政のプロである職員が情報提供等をさせていただいて、議論の枠組みやたたき台のようなものをつくって議論に入ってもらいたいような工夫も個々の場面では必要だと考えている。
- ・ただ、原則的にはいろいろな選択肢がある状態の中で、市民の皆さんが議論の中に入っていけるような状況をつくれるよう配慮したいと思っている。
- ・また、小田原の文化資産についてであるが、私は今回の市民文化祭の大部分の企画に参加させていただいた。このような文化祭に出てくるものだけでなく、地域には数多くの文化資産が埋もれており、ともすれば、こういった資産が地域外に流出してしまったり、劣化して価値がなくなってしまうといったことも往々にしてある。このような取り組みは、先に説明させていただいた「徳を活かす市政」の重要な分野でもあるので、有形無形を問わず、文化的価値が高い取り組みについては、皆さんの目に付くところに出させていただいて、皆さんが誇りに思えるような状態にしたいと考えている。

(5) 地域経済の活性化について

- ・ 市長の説明の中で、観光などによって交流人口を増やすことがまちを活性化させるとの話があった。
- ・ 過日、ツーデーマーチが行われ、12,300 人もの人に参加したとのことであるが、これだけの人が小田原に来たのに、そのことに対して、まちの活性化にどうつなげていくかという視点が非常に弱いと思った。例えば、小田原の特産物を沿道に並べたり、参加者を温かく迎え入れたりといった方策も必要だと思う。これを観光課や産業政策課、環境部などが、ツーデーマーチとどう関わって、自分たちの仕事につなげていくかという視点も必要である。
- ・ こういったことを踏まえ、小田原でのイベントを地域経済の活性化とどう結びつけていくか、ということを考える検討委員会をつくったらどうか。
- ・ マンネリ化を排した地域経済の活性化に向けたイベントの見直しなどについて、市長はどのような考えをお持ちか伺いたい。

市長

- ・ ツーデーマーチを引き合いに出されたが、小田原最大のイベントである北條五代祭りなどを含め、小田原で開催されるイベントの特徴は、会場に人は出てくるが、イベントが終わった瞬間に人がさっといなくなってしまうことである。
- ・ 会場付近の商店の方たちは一生懸命準備しているが、地域の商店街の方にはあまり人の還流がなく、次の来訪の動機につながっていない。経済振興とって数多くのイベントをやり、短期的な来訪者を増やすのではなく、恒常的なまちの仕組みとしてどう捉えていくのかが非常に重要である。
- ・ 小田原には北條五代祭りやツーデーマーチのほかにも、桜まつりや梅まつり、花火大会など、観光集客力が高く、交流人口の起点になるようネタをいくつも持っているので、それを日常的なまちの魅力、あるいは恒常的なまちのにぎわいにつなげていくような仕組みづくりをしていきたい。
- ・ なお、「中心市街地活性化基本計画」では、こういった駅周辺のまちづくりの問題解決や回遊性の仕組みなどを盛り込んだ形でつくらなければいけ

ないと思っている。その時には是非、ハードの議論にもつながるような話をしていきたい。

(6) 堆肥センターをつくってほしい

- ・ 久野の1号古墳と2号古墳の草がひどいので、個人的に草刈りをやろうと思っているが、刈った草を持っていくところがない。持っていくとなれば市役所しかないと思っている。
- ・ 先ほどの市長説明の中で、地域でのごみ処理のあり方について検討が必要との話が出ていたが、堆肥センターのようなものをつくってもらえれば、そういうところに持っていけると思う。是非、そのようなものをつくってほしい。

市長

- ・ 今日文化財課が来ていないので古墳の管理については分からないが、草刈りで出た草について、地域の資源として循環させたらどうかという提案だと受け止めている。
- ・ 以前、鎌倉市では、生ごみの資源化施設をつくろうとして断念した経緯があったようである。
- ・ 小田原市の可燃ごみの総量のうち、生ごみと剪定枝で全体の4割強のボリュームがあるので、これをどう減らしていくかがこれからの問題であり、新たにつくる焼却炉の大きさやその建設にかかる10億円以上の投資額にも影響してくるので、この問題は決して小さな問題ではない。
- ・ 先ほどの説明のとおり、生ごみをどう減らしていくか、あるいは、地域で出たごみをどう地域内で循環させる仕組みをつくるかなどについて考えていきたいと思っているので、この度のご意見については、今度の課題だと思っている。

(7) 江の浦の市道での交通事故について

- ・ 私は、今年の8月に江の浦の市道で起きた交通事故の当事者の一人である。事故があった道路は以前農道で、現在は市道になっているようであるが、ガードマンも立てていないような場所で、運転の名人でも落ちてしまう。同乗者への対応も含め、現在はどうなっているのか。

大野副市長

- ・ 運転されていた車が市道から落ちたという交通事故については、建設部長から聞いている。今後の対応については、担当課を通じて再度ご連絡させていただく。

(8) これからのごみ処理の方法について・懇談会のあり方について

- ・ 堆肥センターのようなものをつくってほしいと、先ほど別の方が発言され、市長がそれについて回答されていたが、山形県長井市では、「レインボープラン」という名称で、生ごみ系の再資源化等の事業に成功している例があり、その辺りの話を踏まえた形での回答だと感じた。
- ・ 小田原市内にある廃品回収業社では、既に堆肥センターをやっており、私もそれを見させていただいた。このように、実際にやっているところもあるので、そういったところとの組み合わせも含め、全体的なプランニングをどのように考えているのか。例えば、レインボープランのような形を考えているのか、あるいはイトーヨーカドーのような形を考えているのか。また、環境リサイクル、堆肥化といってもいろいろなアプローチの仕方がある。具体的にどのように考えているのか伺いたい。
- ・ また、私自身会計士として、今回のごみ処理の関係については、経費的なことを含め、具体的に検討しているところである。しかし、それをどの部署に提案したらいいのか分からないので伺いたい。
- ・ なお、本日のまちかどトークは中心市街地の開催にもかかわらず、商工会議所や商店街連合会等の方々は出席されていないようである。今回の懇談会は、単なるガス抜きのやられているのか、制度化する目的でやられている

のか、開催の趣旨を伺いたい。

市長

- ・ ごみの話については、市民が一番関わっている生ごみ系のごみをどう地域内で循環させるのかというやり方について、できるだけ市民の方にも参加していただきながら、いろいろと議論していきたいと考えている。まだそのような段階での話である。
- ・ 模範となるものとして、山形県長井市のレインボープランは、当然、私の頭の中に明確に入っているが、あれだけの規模でできるのか、あるいは、街なかでは街なかの、農地がある郊外では郊外のといったやり方に分かれるのか、あるいは、20万市民がいつ頃にできるのか分かれるのか、といった具体的なことについてはこれからである。
- ・ 資源リサイクル業社の株式会社二見さんのように、独自にプラントを持ち、未調理の食品残さなどを肥料化しているところもあるので、そういった民間での取り組みなども活かし、いろいろと試行錯誤しながら、一番いい形を目指していく必要があると思う。
- ・ 具体的にお考えをお持ちであれば、現在、環境政策課が、1市3町のごみ処理の広域化について検討しており、その中に生ごみの話も入っている。したがって、今の段階で市民から提案があれば、環境政策課が受けることができると思う。
- ・ なお、いずれかの段階でごみ処理を考える検討チームを立ち上げて、ご関心のある市民の皆さんにも入っていただきたいと考えているので、是非その時にはご参加いただければありがたい。
- ・ また、この懇談会であるが、動員も何も一切せず、市民の自主性、主体性というものを大事にしながら、純粋に市民の皆さんと意見交換していきたいという思いで開催している。
- ・ 大事なことは、このような場がいろいろな地域の会場を使いながら展開されていくことであり、今日この場で出た意見は確実に所管に吸収され、反映できるものについては反映していくという作業になっていく。ガス抜きという

ことは全くないのでご理解いただきたい。

(9) 公務員不信について

- ・ 最近、厚生労働省事務次官の襲撃事件があったが、その原因として公務員不信があると思う。
- ・ 市の職員の給料は700万円を超えると聞いているが、他の自治体では、図書館業務やごみの収集、保育園運営の仕事などを民間に委託した結果、公務員がもらっていた給料とは格段に安い給料でできるようになったようである。
- ・ こういった状況が、市民参加の障害、あるいは公務員不信につながらないかと危惧している。
- ・ 新聞記事によると、福島県矢祭町ではボランティアがとても盛んで、職員自ら掃除をするなど、市民から賛同されるようなまちづくりをしているようである。
- ・ 単に、職員の給料を下げればいいというものではないが、民間委託をすることによって、市の職員の給料よりも安い給料で同じ仕事ができることもあるようなので、是非その辺りのご意見をお聞かせ願いたい。

市長

- ・ 公務員不信の背景には、信頼を勝ち得るだけの共感や現場を分かち合うような状況がなかった時代が長かったことに原因があるように思える。末端の地方自治体でも職員の仕事が見えない、職員に対し共感が得られないといったことが、事実としてあったことは否めないと思う。
- ・ 今、矢祭町の話が出たが、町長さんが自ら先頭に立って、市民と同じ感覚で、秘書もいない、何もいないということで、全て自分でおやりになっており、大変敬意を払っている。
- ・ 市民と職員が本当の意味での信頼関係を築くために、小田原の中で何ができるか考えているのは、職員が市民とともに働き、地域をつくる担い手として、現場レベルでやっていくことが必要だということである。

- ・そういったことをしていくことによって、職員がこんなに地域のために一生懸命やっているのかと思ってくれると思うし、逆に、市民が地域の中でこんなに頑張っている、あるいはこんな痛みがあるということを、職員が市役所の中にいるよりずっとリアルに感じることができると思う。
- ・そういう意味で、職員の地域担当制、地域に現場を置いた市政運営の仕組みへの転換を目指していきたいと考えている。
- ・なお、職員の報酬については、経済情勢が停滞している中で考えざるを得ない状況になると思うが、まずはその前の段階で、市民とともに現場で働くような市政運営の仕組みをつくりたいと考えている。

(10) ナック、小田原地下街、長崎屋の現状について

- ・ 私は今年の5月、40年ぶりに逗子から小田原に戻ってきた。改めて小田原はいいところだと思う。市長のまちづくりの3つの指針の2番目に書かれていることは全くそのとおりである。それに加え、交通の便の良さも大きな魅力になっている。小田原の人はもっと自信を持っていいと思う。
- ・ 小田原駅前のことであるが、現在、ナック、小田原地下街、長崎屋が閉まっている状況であるが、今後の展開についてお聞かせ願いたい。

市長

- ・ 小田原のことを客観的にご覧いただける立場にあると思うので、そのときには是非ご意見をお願いしたい。
- ・ ナック、小田原地下街、長崎屋の現在と今後の状況であるが、まずナックについては既に報道されているとおり、湯河原に本社があり、万葉の湯を経営している「日本ジャンボー」という会社がビルを購入し、本社が移転してくる予定になっている。かつてのショッピングフロアの利用については未定のようなのであるが、現在はテナントの確定作業に取り組んでいるようである。なお、お堀端通りは観光にとって非常に重要な場所なので、街並みについてはご配慮を願いたいと話をさせていただいた。
- ・ 次に、小田原地下街については、始まったばかりの検討委員会の中で、この

場所の活用策について議論をしている最中である。検討委員会での結論を受けて、地下街の半分の敷地を所有しているＪＲとよく相談をしながら、今後の活用を考えていくことになる。

- ・最後に、長崎屋については、ドンキホーテが出店されるということで準備をしていたが、防火等の関係で問題があり、出店が止まっている状況である。直近の状況は聞いていないが、まだ開店の見通しが立っていないようである。あの場所も重要なポイントになると思うので、その動きについては注目をしていきたい。